

第1章 葛西臨海水族園の現状

立地・施設・特徴

- 葛西臨海公園内に 1989年に開園
- 『海と人間の交流』の場を理念
- クロマグロの群泳、七つの海の生き物等を展示
- 管理運営は（公財）東京動物園協会（指定管理者）

| | |
|------------------|-----------------------|
| 園地面積：約86,000㎡ | 総水量：約4,600t |
| 延床面積：約15,800㎡ | 展示生物数：約600種, 約43,000点 |
| 構造等（本館）：SRC、地上3階 | 飼育生物数：約940種, 約85,000点 |

これまでの実績

- 21世紀に向けた新しい展示開発の場とし、アクリルガラスの現場接着を採用、成功
- マグロ、深海魚、海藻の飼育困難とされた海の生き物の展示に挑戦、成功
- 繁殖や希少種保全に取り組み、繁殖賞は国内水族館最多の52回受賞
- 学校教育との連携や、第4回世界水族館会議の開催等を実施 等

第2章 社会背景

1 目標・計画

- 「誰一人取り残さない」SDGsの開発目標
- 自然と共生する世界に向けた**生物多様性戦略計画**
- 海洋への理解を増進する教育を推進する**海洋基本計画**
- 教育から保全までの統合的取組、環境に優しい行動の選択を促す等の**世界動物園水族館協会の戦略**

2 変化する水族館

- 社会教育施設、教養施設に加え、希少種の保護繁殖を担う施設として**役割が拡大**
- 水族館の**運営形態の多様化**
- **観光資源及びユニークベニュー等としての活用**

3 水族館に求められること

- **持続可能な社会の実現への貢献**
- **生物多様性を守る**ことにつながる取組
- **海と人とをつなぐ架け橋**
- **海の文化・歴史を伝える**
- **グローバルな視点**での統合的な保全活動
- **立地・施設のポテンシャルの発揮**
- ソフト・ハード両面での**アクセシビリティの確保**

第3章 葛西臨海水族園の課題

1 機能から見た課題

- これまでの希少種保全、環境教育等の取組の発展とともに、新たな取組に挑戦することが重要
- **新たな取組を行う上で重要となる機能を再構築する必要**

2 施設の課題

- (1) 不足する施設 無料休憩所、レクチャールーム等の充実が求められる
- (2) 施設・設備の老朽化 配管等の交換が困難、アクリルガラスの劣化の進行
- (3) アクセシビリティの確保が不十分 誰もが利用しやすい仕様やデザインへの対応が困難
- (4) 展示の課題 気づき・感動等を生む水槽形状や展示手法の開発等が必要
- (5) 消費エネルギーに関する課題 消費エネルギーが大きい施設で、様々なCO₂削減策が必要

3 管理運営の課題

- (1) 来園者を引きつける魅力 来園者数の伸び悩み、来園者を引き付ける広報戦略の強化が必要
(2) 経費の削減 電力消費を抑える取組、海水使用量を削減する技術開発の検討が必要

第4章 新たな水族園像とその実現に向けて

1 新たな水族園像

(1) 新たな理念

新たな理念 「海と接する機会を創出し、海と人とのつながりを通して海への理解を深める水族園」

行動規範 「海への興味・関心を高めることができる場を提供」

「私たちのライフスタイルの転換を促す」 「豊かな海を未来に残す一翼を担う」

「東京湾・海に関する文化・歴史を発信」 「海の未来を考え、行動する人材を育てる」

「海を感じる魅力的な時間・空間を提供」

→ 日本を代表する水族館として、水族館のトップランナーであり続けるように取り組む

(2) 機能の再構築

- 新たな理念を達成するには、**持続可能性を重視した新たな取組を行う必要**
- **4つの機能を6つの機能に再構築、全てを有機的につなげた取組へと発展**

〈6つの機能〉 ①調査・研究 ②収集・飼育・繁殖 ③展示・空間演出
④レクリエーション ⑤学習・体験 ⑥環境保全への貢献

○ 機能を発揮させるために

- * 持続可能性を重視した収集・調達等の取組・活動を基本
- * 臨場感・期待感が高まる展示・空間演出 * 多様なニーズに対応した過ごし方を提供
- * 幅広い学びの機会を提供するほか、人と人とのコミュニケーションを重視 等

(3) 施設性能について

- 来園者ニーズへの対応等、誰もが使いやすく魅力的な施設
- 飼育、繁殖等の水族園機能を十分に発揮 ○ メンテナンス性能の確保、環境負荷の低減

(4) 管理運営にあたって

- インバウンド誘致等、来園者増加の取組 ○ ICT等の媒体を適切に活用した情報発信
- 様々な組織・団体等との連携 ○ 運営者にインセンティブを持たせる仕組み

2 実現に向けた進め方

- これまでの展示・空間演出を抜本的に刷新する必要
- 老朽化対応、アクセシビリティの改善等が必要
- 利用者ニーズへの対応等には増築が必要
- 生き物の受入手配等は非常に困難

水族園地内に、
**既存施設とは別に建築する
建物に水族園機能を移す**
ことを基本とした検討を進める

3 検討の進め方

- 具体的な規模、手法等は、**ライフサイクルコスト及び官民連携方法と合わせ検討**
- **スケジュール（予定）** 2019年1月 有識者検討会の設置
2019年12月 規模、手法等の取りまとめ